

## プロジェクト名

### 教員養成大学が現代的教育課題に対応するための基盤整備 ～総合的な学習の時間による人づくり「元気になる授業の創り方」～

## 目的

総合的な学習の時間（以下「総合」）に対応する教員養成カリキュラムの全学的な確立のために、本学の多種多様な教育力を「総合」という教科の中で有機的につなげ、新たな教員養成の手法を検討・提案すること。

## 組織・方法

学生、教職員（大学・附属）、現職教員等が共に考え、学ぶ場をもつためにオープン参加型・ワークショップ形式の研修「元気になる授業の創り方」（全10回、14日間）を開催し、参加者全員が同じ目線で「総合」を学ぶことを試みました（参加者：のべ267人）。プロジェクトの企画運営も学びたいという学生の協力を得て、本プロジェクトを支える研究会スタッフは13人となっています。

研究会スタッフ：船津建（プロジェクトリーダー、国際共生教育講座）、平尾健二（技術教育講座）、志賀壮史（ファシリテーター、(有)里山計画研究所）、藤本登（長崎大学、昨年度まで本学教員）、学生9名

## 取り組みの概要

### 【2005年度】

「総合」を担うために必要な考え方、手法を学ぶためのワークショップを学外講師（教育委員会関係者、海外の教育者）やファシリテーター（研修の先導者）の協力下で実施し、学びの体験を共有しました（全6回）。一方、本学学生ならびに附属学校の教員を対象としたアンケート調査を実施し、「総合」に関する意識、ニーズ等を明らかにしながら、大学と附属の連携の可能性をさぐりました。

### 【2006年度】

昨年学んだものを活かし、宗像市地島を舞台に「総合」の実践を試みました。事前準備として、「総合」のスペシャリストである附属福岡小の高野教頭、地島小教員から、実際の「総合」を学び（8/9-10）、プログラムデザインの手法を学びながら、実際に島（地域）を教材として活用する学習プログラムを作成し（9/26）、「地域」、「ものづくり」、「食」の3テーマの「総合」を、島の子どもたちと実践し

（11/18-19）、その体験をもとに実践可能なプログラムを完成させました（12/10）。



研修「元気になる授業の創り方」  
(全10回)



基本は輪になって座ること  
(2005年第4回)



参加者全員が同じ目線で学ぶ  
(2005年第3回)

## 成果

当初、1名の教員の呼びかけで始まった本プロジェクトは、2年間の取り組みを通し、積極的にスタッフとして関わる学生と教員とが今後の本学の教育に望むことや新しいカリキュラムを考える場をもてたことは、画期的なことといえます。また、学外で活躍するファシリテーターを活用し、本学の講義等では得にくい学習スタイルや教授手法としての各種スキルを参加者が身につけられたことも大きな収穫といえるでしょう。研究論文としては、日本教育大学協会研究年報（第25集）、他3報に投稿しました。

公表された論文

- 藤本登・平尾健二・船津建 2007年  
大学としての総合的な学習の時間への対応について—福岡教育  
大学生の意識調査と附属学校との連携について—  
日本教育大学協会研究年報 第25集 69-79
- 藤本登・平尾健二・森岡亮・山内あさみ・船津建 2007年  
附属学校との連携による総合的な学習の時間への対応の可能性  
～学生と附属学校教員へのアンケート調査～  
福岡教育大学紀要 第56号第4分冊 193-200
- 藤本登・平尾健二・志賀壮史・船津建 2007年  
大学教育における総合的な学習に関する実習例  
—外部教育支援者と大学教員による研修プログラム—  
教育実践研究 第15号 37-44
- 船津建・平尾健二・藤本登・志賀壮史 2007年  
大学と地域の連携による総合的な学習に関する実習例  
～宗像市地島をフィールドにして～  
教育実践研究別冊 FD研究報告書 第8号 31-37



附属教員から「総合」の実際を学ぶ  
(2006年第1回)



地島での「総合」プログラムの実践  
(2006年第3回)

### プロジェクトへの声1（研修終了時）

- ・プロのファシリテーターの能力はすばらしい。教員にも講義や実習を進める上で非常に参考になる。(教員、2005年第3回研修)
- ・実例や附属小の先生の「総合」に関する苦労話を聞くことができ大変興味深かった。なるほど！と思うこともたくさんあった。(学生、2006年第1回研修)
- ・この手の体験形式の講義がなかなか教育大の中にないので、このような講義は大学にぜひ必要だと思う。(学生、2006年第2回研修)

### プロジェクトへの声2（2008年現在の声）

例1：元プロジェクトスタッフ教員・・・「体験型のワークショップ等における講師としてのスキルを身につけられたことにより、現在、大学における講義、実習はもちろん、学外での講習、教員研修等に役立っています。」

例2：元プロジェクト学生（現在大学院2年生）・・・「私はこのプロジェクトで①意見を出しやすい雰囲気を作る②意見を肯定的にとらえる③気づきを中心とした授業にする手法を学びました。それらを使って、今年度、修士論文の一環で本学学生を対象に開催した自炊教室時に、アイスブレイクと振り返りを導入し、参加者間の雰囲気作りを行うことで、スムーズに教室を運営することができました。」